

工事検査ワンポイントアドバイス
「検査のポイント コンクリート構造物工事」

工事検査通信 No.63

発行： R2年7月31日

出納局 工事検査課



長居検査員。おはようございます。
前号の「コンクリート品質管理基準の試験頻度」について、
わかりやすい資料をいただき勉強になりました。
今回は、検査員がどのような視点で品質を確認しているのか
ポイントを教えてください。

はい、わかりました。
それでは、コンクリート構造物のポイントについて、
書類検査を実施する際に確認することを順に説明します。
まず、【配合計画書】を確認をします。
コンクリート強度、セメントの種類、水セメント比、そして重要構造物では単位水量
を確認します。



コンクリート構造物の仕様条件として、
水セメント比は「鉄筋コンクリートは55%以下」、
「無筋コンクリートは60%以下」と規定されているので、
仕様条件を確認しなければならないですね。

次に確認するのは、【受け入れ時の試験方法】です。
基本、打設日1日につき1回行っているか、また供試体採取時にラベル等を入れている
か確認します。
ただし、小規模工種で総使用量が50m3未満の場合は品質証明書等のみとすることが
できます。



前号の資料「セメント・コンクリート品質管理基準(共仕R020401改正
版)」が参考になるので、今回も添付しているのですね。

次に、施工管理上重要と考えている項目は、現場内の【気温管理】です。
施工日の外気温だけでなく、自記温度計等を用い現場内の日平均気温を管理し、
運搬、打設、養生、脱型まで一連の管理を行っているか確認します。



現場内の【気温管理】も、コンクリート構造物の品質管理として重要な
のですね。
次に、コンクリート打設時の写真で品質管理を確認する時のポイントは
何かありますか。

コンクリート打設時の写真から品質管理の確認としては【打設高、締固め状況及び打継ぎ目処理】なども重要です。

打設高1.5m以下としているか、2層以上の打設ではバイブレーターを下層コンクリート内へ10cm程度挿入しているかや、共通仕様書に基づいた打継ぎ目処理を行っているか。

コンクリート打設には各工程ごとに撮影するタイミングを逃さないよう、またわかりやすく撮影することが重要です。



わかりました。

次に、鉄筋加工組立を確認するポイントは、どのようなことがあるのでしょうか。

【ミルシートで品質規格】、【浮きさびや表面についた泥、油等の除去】を確認します。

泥や油等は組立て時に取り除くか、完了後に確認または清掃してからコンクリートを打ち込んでいるかを写真に残すことで確認できます。

さらに、【かぶりやスパーサーの品質及び配置個数】が写真で確認できるか、あるいは発注者の段階確認を実施しているかを確認します。



ありがとうございました。

新しい生活様式とともに、感染症対策に配慮しながら検査業務をがんばります。

●本日のポイント

工事検査課ホームページをのぞいてみましょう。

【関係資料】

・工事検査における工種毎等のポイント〔土木工事編〕令和2年4月

【工事検査通信バックナンバー】

No. 46 コンクリート構造物施工上の留意点

No. 47 コンクリート構造物施工時に発生する不具合

No. 62 品質管理基準の試験頻度の添付資料 を、あわせてご覧ください。

【登場人物の設定】

○福島県 出納局 工事検査課



：長居(カ)検査員



：若井(カ)検査員